



研究テーマ

犬と猫の悪性腫瘍の診断と治療に関する研究

牛と豚の外科疾患の診断と治療に関する研究

雄鶏の去勢(精巢摘出)技術に関する検討



日高勇一

ひだか ゆういち
農学部
獣医学科
獣医外科学研究室

教授

キーワード

犬、猫、牛、豚、鶏、がん、手術、抗がん剤治療、動注化学療法、肺転移治療、臍ヘルニア、陰囊ヘルニア、尿管管遺残、骨折、脱臼、関節炎、雄鶏の去勢技術

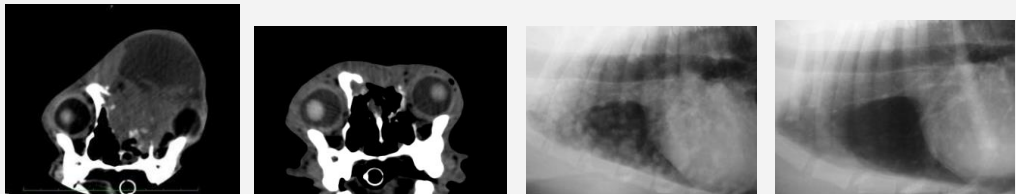
特許情報・
共同研究・
応用分野など

研究概要

犬や猫も「がん」を患い、動物病院を受診した時には既に進行、転移していたり、治療が難しいケースが多々あります。そのような動物達に対し、有効な治療法を検討しています。さらに、牛や豚ではヘルニア疾患や運動器疾患が多く、その診断、治療を積極的に行っています。また、鶏では高度な技術を必要とする精巢摘出術についても研究を行っています。

1 犬と猫の悪性腫瘍の診断と治療に関する研究

犬や猫も「がん」を患い、ヒトと同じくその診断や治療に苦慮する事は少なくありません。とくに、頭頸部(口腔、鼻腔、喉頭)、膀胱の悪性腫瘍や乳癌の肺転移などは、その治療法の選択に苦慮します。そこで、ヒトの医療を参考に、様々な治療法(手術、抗がん剤、温熱療法等)を組み合わせ、悪性腫瘍に苦しむ動物達の治療に取り組んでいます。



悪性鼻腔腫瘍(左:治療前、右:治療後) 悪性腫瘍の肺転移(左:治療前、右:治療後)

2 牛と豚の外科疾患の診断と治療に関する研究

牛や豚はその経済的理由により先天性の疾患や運動器疾患では治療されることなく、淘汰されてきました。しかし、宮崎県は日本を代表する畜産県であることから、一頭一頭を大事に取扱い、その診断と治療に関して研究室では伝統的に取り組んでいます。これまでの経験を活かしつつ、新しい治療法(主に手術)を考案して、一頭でも牛や豚が無駄にならないよう努力しています。



子牛の骨折(左:手術前、右:手術後) 肉用豚の臍ヘルニア(左:手術前、右:手術後)

3 雄鶏の去勢(精巢摘出)技術に関する検討

牛や豚と同様に、鶏も精巢を摘出(去勢)する事で、肉質が改善する事が知られています。ヨーロッパでは昔からこの技術が行われ、去勢鶏の肉は今でも高級食材として取り扱われています。日本でも一部の地域では商業ベースに発展しています。しかし、その技術のノウハウは不明な点が多く、独自の技術を開発する必要があります。

ホームページ

http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~vet/Vet_SurgHP/index.html

技術相談に応じられる関連分野

- ・動物の血液や生体組織の採取法
- ・牛の麻酔法(全身、局所、硬膜外)
- ・鶏の精巢摘出術

メッセージ

- ・共同研究の希望テーマ:抗腫瘍薬の臨床治験
 - :牛の運動器疾患治療薬等の臨床治験
 - :動物の外科手術用器具の開発
 - :鶏の精巢摘出による肉質改善